

笠岡商店街南三陸支援NEWS

笠岡希望プロジェクト
代表 加藤秀雄
2011. 5. 1

笠岡の気持ちを届ける第3陣「福興市支援」

笠岡商店街は「笠岡希望プロジェクト」の名のもとに「ぼうさい朝市ネットワーク」の仲間である宮城県南三陸町を支援させていただいています。東日本大震災後50日が過ぎ、被災地の状況も少しずつ変わってきています。南三陸の志津川小学校避難所ではやっと電気が復旧し、すこしずつではありますが復興に向けて動いているようです。

さて、皆様のご協力で物品提供いただき、4月29日・30日に南三陸の志津川中学校で開催される「福興市」の支援のために、加藤秀雄隊長他7名の第3陣が4月28日に笠岡を出発しました。

今回の「福興市」は被災地からの商業の復活をアピールするものですが、南三陸の商店主は被災に会い販売する物が無いので、ぼうさい朝市の全国ネットワークにより全国の商店街から物とスタッフを集めて被災にあった商店の看板で震災後初めての市を行おうという取り組みです。

これまでは救援物資ということで「無料提供」であるために「平等」が原則で、受ける側には選択の余地はありません。今回の市では次なる展開としてお金を払って買物をするという練習も兼ね、避難所等に地域通貨を3000枚配布し、100たこ=100円で換算し、現金として使える仕組みになっているとのことで、皆さんからご提供いただいた商品に値付けをして、販売、その売り上げを全額実行委員会へ寄付するというものです。



大人気の笠岡ブース



干拓牛の丸焼き



ブルマンコーヒー



注目度NO.1

ぼうさい朝市ネットワークの他、地元のJAや再開した商店など15のブースが軒を並べて2日間の「福興市」を開催。ほとんどが食べ物のブースだったので、商店街から提供していただいた「お菓子・化粧品・バナナ・文具品・ソックス・本」などについては立ち止まっていた商品を選んでいく姿は印象的でした。そして、牛もコーヒーも大好評で、社協メンバー、市民ボランティアの皆さんの力で2日間で17万円を超える収入を実行委員会へ寄付することができました。

また、商店街の話し合いの中でだされた「輪投げ」についても、他に子ども向けのゲームコーナーが無いので人が絶えず、子どもたちにもすごく喜んでもらえました。また、色々と志向を凝らして皆さんに喜んでいただける支援をさせていただきたいと思っています。

被災地での商業復興のモデルに！



南三陸の山内さん・及川さんを中心に

第1陣から約1か月。中心市街地は電柱が立ち、電気が普及し、当時不足していた燃料不自由なく調達できるようになっています。避難所も集団移転も第3次まですすみ当時500名以上でしたが現在は200名まで減っています。その中で産業の復興にはまだまだ時間がかかるという印象ですが、震災後わずか1か月足らずで市を開こうと考えたかは、自らが動きを出して、マスコミを通じて政府や世論に今後の被災地での商業の復興についての問いかけのような感じを受けました。人と人のネットワークを大切にする街は人が繋がりとつもない大きな力を生み出すと言っても過言ではありません。きっと今後の商業復興のモデルになると思います。商店街の皆様には色々と物品をご提供いただきまことにありがとうございました。南三陸の皆さんの物を選ぶ笑顔を見てあらためて私たち商店街の役割を痛感しました。

南三陸復興市フォーカス



神内小から志津川小へ



コーヒー担当チーム・エスポ



地元の小学生が助っ人に



ボランティアの女性と5月結婚します



笠岡の寄贈テントはステージ回りに



志津川小避難所での歓迎会



全国から集まったぼうさ朝市ネットワークのメンバー



志津川中学校の生徒も助っ人に

お酒を飲みながら復興を！



復興酒で支援

山形県の庄内町と南三陸町友好町盟約締結5周年を記念して庄内町でつくられていたものです。この度の震災で大きな被害を受けた南三陸町の復興のために、1本あたり200円の義援金が南三陸町へ届けられます。

今回30本を仕入れて帰りました。ご希望の方は事務局までお申し込みください。

南三陸庄内の風
1260円(720ml)
(内200円が義援金)



最終日はあのエグザエルが激励に